

日本初、「サッカーナース※」 KICKOFF ～サッカーナースが全国のサッカーイベントの安全と安心を護る～

革新的なヘルスケアサービスをプロデュースして健康的な社会づくりに貢献することをミッションとするケアプロ株式会社（東京都中野区：代表取締役 川添高志）では、日本初の「サッカーナース」<https://soccer-nurse.com>を開始することになりましたので、ご案内します。

▼Withコロナのスポーツイベントとサッカーナースの役割

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的流行の中で、医療界のみならず、スポーツ界を含め社会全体での対応が求められています。サッカーナースは、感染防止策を徹底するための具体的なアクションやイベント会場の重点消毒ポイント、ゾーニングなど一緒に考え、計画を立てます。そして、熱中症を含むスポーツ関連の外傷や事故の発生を予防することで、日本の医療体制を守ることに貢献します。

▼サッカーファミリーとサッカーナースのビジョン

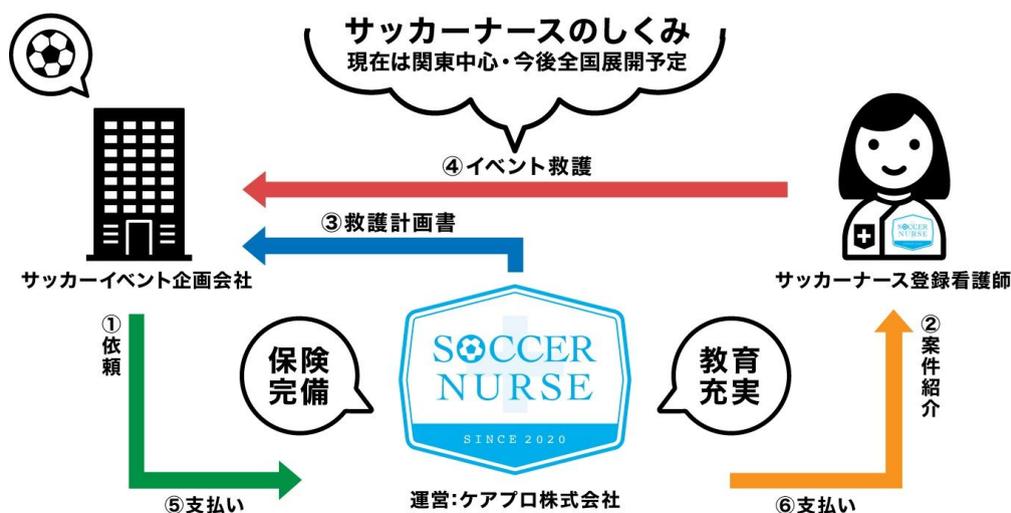
サッカーファミリーが、安全に、安心してサッカーを楽しめる環境をサポートします。日本サッカー協会（JFA）では、サッカーに携わるすべての人々をサッカーファミリーとよび、2015年に526万人となりました。2030年には800万人になる目標を掲げています。しかし、救護運営が十分に行えていないサッカーイベントもあります。そこで、サッカーナースは、子供や高齢者、障害者等の様々なサッカーファミリーのために取り組みます。

〔参考：JFAグラスルーツ宣言（2014年5月、抜粋）〕

「だれもが、心からサッカーを楽しめるように！」

「安全に、安心してサッカーを楽しめる環境を、しっかりと整えます。」

▼サッカーナースのしくみ ～サッカーイベントとサッカー好きの看護師をつなぐ～



▼サッカーナースの特徴

1. サッカーが好きな看護師のみが所属しており、サッカーへのリスペクトがあります。
2. 救急医療やスポーツ救護経験があり、またサッカーナース独自の教育プログラムによって、高い専門性があります。
3. イベント前の救護計画の立案からイベント当日の救護運営、救護活動報告まで、まるごと行います。
※但し、医行為に該当しない範囲での救護活動
4. 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため政府の方針や各スポーツ団体ガイドラインに基づき、安心・安全の救護運営をサポートします。
5. サッカーナースは看護職賠償責任保険に加入しています。

▼導入事例



特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会

導入事例



理事長
塩嶋 史郎様

特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会 (JBFA)

JBFAは「ブラインドサッカーを通じて視覚障がい者と健常者が当たり前にならざる社会を実現すること」というビジョンを掲げ、事業を展開しています。このビジョンの実現のため主催大会では、障がいの有無に関わらず多種多様な人が安心・安全に観戦ができる環境を整備しています。そのような環境を構築していかなかで、観戦者が怪我をした時や体調不良になった時の対応に課題を感じていました。この課題を解決するためにケアプロ様のサービスを導入しました。そして、ケアプロ様のサービスを大会運営に導入することで、大会運営をしているスタッフも安心・安全に観戦者を迎え入れることができました。

導入実績

2019年12月08日
ブラインドサッカー チャレンジカップ2019 日本代表対モロッコ代表 (町田市立総合体育館)

2020年02月08日・09日
KPMGカップ ブラインドサッカークラブチーム選手権2020 (富士通スタジアム川崎)

2020年02月22日
さいたま市ノーマライゼーションカップ2020 女子日本代表対女子アルゼンチン選抜 (サイデン化学アリーナ さいたま市記念総合体育館)

〔メディア掲載・取材に関する問い合わせ先〕

ケアプロ株式会社 交通医療事業部 担当 古川

お問い合わせフォーム <https://soccer-nurse.com/contact>

〔会社概要〕 ケアプロ株式会社 <https://carepro.co.jp/>

理念：革新的なヘルスケアサービスをプロデュースし、健康的な社会づくりに貢献する

設立：2007年12月12日

代表取締役社長：川添 高志 (かわぞえ たかし) 〔看護師・保健師〕